

赤十字おおきま

NO. 30

Okayama Chapter



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

万博と赤十字



1867年パリ万博で
ひとりの日本人が赤十字に出会いました。

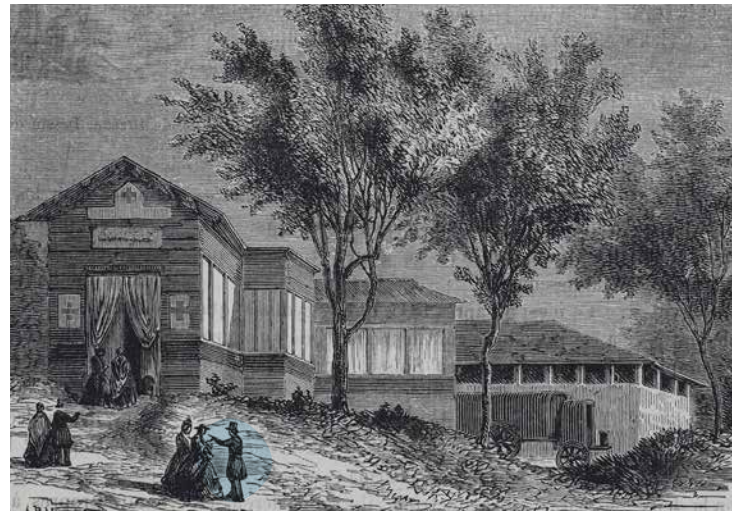
日本赤十字社 創設者：佐野常民(さの つねたみ)



万博と赤十字

日本赤十字社の誕生は、創設者である佐野常民が、1867年のパリ万国博覧会を訪れたことがきっかけでした。
今回は、万博と赤十字の150年以上にわたる関係と大阪・関西万博に出展中の「国際赤十字・赤新月運動」のパビリオンをご紹介します。

1867年 パリ万国博覧会



赤十字パビリオン “L'Exposition universelle de 1867 : illustrée”

赤十字が初めて万博に出展したのは、1867年の第2回のパリ万博。パリ万博を視察した佐野常民(日赤の創設者)は「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である」と敵味方の区別なく救うという理念に衝撃を受けます。後に日本で赤十字社を立ち上げたことから、万博が赤十字の周知・発展に大きく寄与していることが伺えます。



ウィーン万博派遣団一行写真(有田町歴史民俗資料館蔵)

1873年 ウィーン万国博覧会

佐野は明治政府の代表として1873年のウィーン万博にも派遣されました。ヨーロッパ圏での赤十字社の発展を目の当たり、赤十字のような組織の必要性を再認識します。その経験を通じて日本の赤十字社設立への思いをより強くしていきます。

日本赤十字社設立から現在

1877年、西南戦争で敵味方の区別なく戦場の負傷兵を救護するために、佐野は日赤の前身である博愛社の設立にこぎつけます。万博によって世界に触れ、開明的な視点を得た佐野が、「人道」を重んじる真の近代化への一步を日赤と共に歩み始めた瞬間でした。以来現在に至るまで、どのような状況下でも人間のいのちと健康、尊厳を守るために日本赤十字社は活動してきました。

2025年 大阪・関西万博の赤十字パビリオン

ZONE 1 気づく“Notice”

世界の人々の「かけがえのない日常」、あなたは何を感じる？



画像提供:丹青社 ©河野 政人

赤十字の活動地で撮影された。
そこで暮らす人々の幸せな日常

ZONE 3 実行する“Act”

あなたの投稿が
目の前のメッセージウォールに!

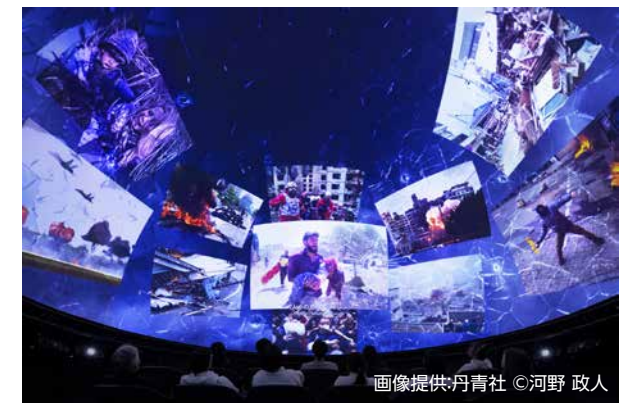


画像提供:丹青社 ©河野 政人

投稿したメッセージは、
後からWEBでも閲覧が可能

ZONE 2 考える“Think”

目前に広がる“世界の人道危機”!
ドームシアターで没入体験



画像提供:丹青社 ©河野 政人

迫力ある映像と、誰かを救うために
行動する人々の姿に涙する人も

赤十字運動への共感とともに
人道アクションのきっかけを生む

日赤が事務局を務めるパビリオンの正式名称は「国際赤十字・赤新月運動館」。「気づく“Notice”」「考える“Think”」「実行する“Act”」という3つのZONE構成となっています。
「わたしの“できる”は、誰かのためになる。」をコンセプトに、多くの来場者に赤十字運動への理解や共感を高めてもらい、人道アクションにつながるきっかけになることを願いながら、赤十字の世界観を体感できる場となっています。

来場者の声

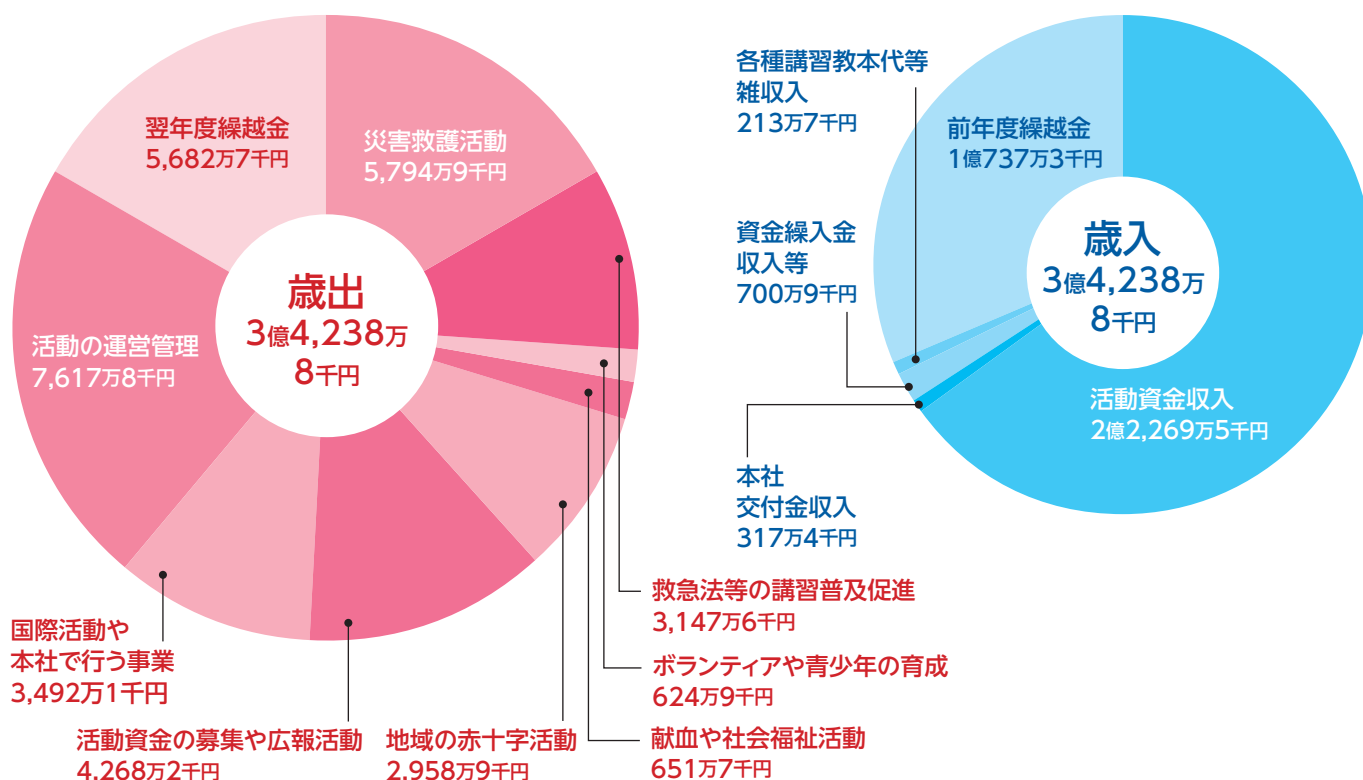
皆さんの活動を見て、私も出来ることをやろうと思いました。

来場者の声

赤十字が、たくさんの人々の支えになっている団体だとわかった。

令和6年度決算概要を報告します。

岡山県支部の事業にかかる歳入歳出決算をまとめたものです。



令和6年度に実施した主な活動



防災・減災の知識や技術を普及するための
赤十字防災セミナー指導者の養成



災害時の出動に備えた救護班要員の育成



岡山シーガルズとのタイアップによる
フレイル予防イベントの開催